

Ubuntu 導入ガイド

あわしろ いくや/Ubuntu Japanese Team

Canonical Ltd. and members of the Ubuntu Documentation Project

目次

Step 1 Ubuntu について.....	1
1.1 Ubuntu オペレーティングシステムの背景と哲学の紹介.....	1
1.2 名前について.....	1
1.3 フリーソフトウェアについて.....	2
1.4 他との違い.....	3
1.5 デスクトップ環境.....	3
1.6 バージョン番号とリリース番号について.....	4
1.7 支援体制とサポート.....	4
1.8 Linux とは?.....	4
1.9 GNU とは?.....	5
Step 2 インストールと環境構築.....	6
2.1 注意.....	6
2.2 スペック.....	6
2.3 公式版 Desktop CD からインストール.....	6
2.4 最新の状態に更新.....	14
2.5 日本語ローカライズ版と同等にする.....	16
Step 3 Tips.....	21
3.1 SCIM の設定.....	21
3.2 簡単コーデックインストール.....	21
3.3 プリンタ.....	22
3.3.1 HP 編.....	23
3.3.2 Canon/EPSON 編.....	24
3.3.3 Brother 編.....	25
3.3.4 Postscript(互換)プリンタ編.....	25
3.4 さらなる情報.....	26
3.4.1 書籍.....	26
3.4.2 Web.....	26
3.4.3 最新版.....	26
奥付.....	27
著者.....	27
Step 1 の著作権およびライセンス.....	27
Step 2/3 の著作権およびライセンス.....	28
商標.....	28
バージョン情報.....	28

Step 1 Ubuntuについて

1.1 Ubuntu オペレーティングシステムの背景と哲学の紹介

このセクションではUbuntuについての紹介をします。Ubuntuの哲学と起源を説明し、Ubuntuに貢献する方法についての情報を提供し、Ubuntuのヘルプを得る方法を示します。

Ubuntuは将来に渡って常に無償であり、「エンタープライズ版」を作り価格をつけるようなことはありません。私たちの精一杯の成果を、すべての人に同一の自由な条件で提供します。

Ubuntuをできる限り多くの人々に利用して頂けるように、フリーソフトウェアが提供すべき翻訳およびユーザ補助機能の提供にベストを尽くします。

Ubuntuは定期的かつ予告どおりにリリースされます。新しいリリースは6ヶ月ごとに作成されています。利用者はその時点の安定版リリースか、開発版リリースのどちらでも使うことができます。どちらのリリースも、少なくとも18ヶ月の間サポートされます。

Ubuntuはオープンソースソフトウェア開発の原則に完全に則っています。すなわち、私たちは人々がオープンソースソフトウェアを使い、改良し、配布することを奨励します。

UbuntuはLinuxカーネルを中心に構築された、完全なオープンソースオペレーティングシステムです。

UbuntuコミュニティはUbuntu Philosophy¹で掲げられた理想を中心にして構成されています：

「ソフトウェアは、無償で利用できるべきであり、自分の言語で利用可能であるべきであり、あらゆる障害にかかわらず利用できるべきである。そして、利用者はソフトウェアを好きなようにカスタマイズおよび改変する自由を持つことができる」これらの理由のために：

詳細はthe Ubuntu website²で探してください。

1.2 名前について

Ubuntuは人間同士の信頼や、お互いの関わりについての南アフリカの倫理的な概念です。この言葉はズールー族の、そしてコサ族の言語からきています。Ubuntu（「oo-BOON-too うおー ぶーン つうー」と発音します）は伝統的なアフリカで、南アフリカ共和国の創設原理のひとつと見なされ、アフリカのルネサンスについてのアイデアに繋がっています。

Ubuntuの根本原理を大まかに訳すと、「他者への思いやり」です。別に翻訳してみると、「すべての人類をつなげる普遍的な分かちあいの絆を信じること」といえるでしょう。

Desmond Tutu 大司教

1 <http://www.ubuntu.com/community/ubuntustory/philosophy>

2 <http://www.ubuntu.com/>

「Ubuntu な人とは、オープンな性格で他人に貢献する気持ちがあつて、自分以外を肯定的に捉えられる人のことです。Ubuntu な人は自分が大きな世界につながっているという確信から生まれる適度な自信をもっているために、他人の能力や親切をねたみません。他人が馬鹿にされたり落ち込んだりしたときには共に落ち込み、他人が苦しんでいるときにはその気持ちを共にします」

Linux ベースのプラットフォームとして、Ubuntu オペレーティングシステムはソフトウェアの世界に ubuntu の精神をもたらします。

1.3 フリーソフトウェアについて

Ubuntu プロジェクトはフリーソフトウェア開発の原則に完全に則っています。すなわち、人々はフリーソフトウェアを使い、改良し、配布することを奨励されます。

「フリーソフトウェア」とは、費用なしで使えるという意味ではありません(もともと Ubuntu は無償であることも約束していますが)。その意味は、ユーザはソフトウェアを希望するあらゆる方法で使えるべきだということです。フリーソフトウェアを構成するコードは、誰もがダウンロードし、変更し、修正し、あらゆる形で利用することができます。理念的な恩恵のほかに、この自由は技術的な利点もあります。プログラムの開発において、誰かの苦勞の成果を利用したり、さらに拡張したりできます。

非フリーソフトウェアであれば、こういったことは行えず、どうしてもゼロから開発を進めなくてはなりません。このため、フリーソフトウェアの開発は迅速で効率良く、素晴らしいものとなるのです。

フリーソフトウェアと、その理念のおよび技術的哲学についての詳細は GNU website³ で探することができます。

1.4 他との違い

Linux を元にした、異なるオペレーティングシステムが数多く存在します。Debian、SuSE、Gentoo、RedHat、Mandriva などです。Ubuntu はこうしたすでに非常に競争の激しい世界の新たな挑戦者です。Ubuntu の違いとはなんでしょうか？

さまざまな分野で高く評価され、先進の技術を採用し、サポートが充実したディストリビューションの 1 つである Debian をベースとしている Ubuntu は、最新性と整合性を備えた Linux システムをデスクトップとサーバーの両方の用途に提供するディストリビューションを目指しています。Ubuntu には Debian ディストリビューションから選び抜かれた多数のパッケージが含まれ、その強力なパッケージ管理システムによってプログラムの容易なインストールときれいな削除が実現します。大半のディストリビューションが大量のソフトウェアを玉石混交で収録しているのとは対照的に、Ubuntu は高品質で重要なアプリケーションを厳選しています。

品質を主眼においたことで、Ubuntu は家庭用と商用のどちらにも適した、堅牢で多機

3 <http://www.gnu.org/philosophy/>

能なコンピューティング環境を作り出しています。Ubuntu プロジェクトは細部を詰めるのに必要な時間を確保しつつ、最新かつ最高の今日のソフトウェアを採用したバージョンを 6 ヶ月ごとにリリースできます。Ubuntu は i386(386/486/Pentium (II/III/4)ならびに Athlon/Duron/Sempron の各プロセッサ)、AMD64(Athlon64、Opteron、新しい 64 ビット Intel プロセッサ)、PowerPC(iBook/Powerbook/G4/G5)の各アーキテクチャで利用できます。

1.5 デスクトップ環境

Ubuntu のデフォルトのデスクトップ環境は GNOME⁴で、UNIX や Linux の主要なデスクトップ統合・開発環境のひとつです。

別の UNIX や Linux のデスクトップ環境として、KDE⁵ があります。Kubuntu⁶ プロジェクトは、Ubuntu ユーザにデフォルトの GNOME デスクトップ環境に代わる選択肢を提供します。Kubuntu チームの働きにより、Ubuntu ユーザは KDE デスクトップ環境を、容易にインストールして使用することができるようになりました。インストール済みの Ubuntu に重ねて Kubuntu をインストールするには、kubuntu-desktop パッケージをインストールしてください。一度 kubuntu-desktop をインストールしてしまえば、GNOME 環境と KDE 環境を選択することができます。

1.6 バージョン番号とリリース番号について

Ubuntu のバージョン番号はリリースされる日付を元に付けられています。つまり、リリースされる年と月の番号で形成され、実際のソフトウェアのバージョンとは関係がないということです。最初の製品 (Warty Warthog)は 2004 年の 10 月にリリースされたため、このバージョン番号は 4.10 でした。今回の製品 (Feisty Fawn)は 2007 年の 4 月にリリースされたため、このバージョン番号は 7.04 となっています。

1.7 支援体制とサポート

Ubuntu は急速に成長するコミュニティに支えられています。プロジェクトは Canonical Ltd.⁷ に支援されています。同社は Mark Shuttleworth が設立した親会社です。Canonical は Ubuntu 開発の中核メンバーを雇用し、Ubuntu のサポートやコンサルティング業務を行っています。

Canonical Ltd.は他にも多くのオープンソースソフトウェアのプロジェクトを支援しています。詳細については Canonical の Web サイトを参照してください。

4 <http://www.gnome.org/>

5 <http://www.kde.org/>

6 <http://www.kubuntu.org/>

7 <http://www.canonical.com/>

1.8 Linux とは？

Linux カーネル⁸ (リナックスと発音) は Ubuntu オペレーティングシステムの心臓部です。カーネルはどんなオペレーティングシステムでも重要な部分であり、ハードウェアとソフトウェアの間の通信の橋渡しをします。

Linux は 1991 年にフィンランド人学生 Linus Torvalds 氏によって、生を受けられました。その時点では、i386 システムでしか動作せず、本質的に独自に開発された UNIX カーネルのクローンであり、当時最新の i386 アーキテクチャを活用することを意図していました。

今日では、世界中の人々の十分な開発努力のおかげで、Linux は事実上全ての現行アーキテクチャで動作します。

Linux カーネルは技術面ばかりでなく理念的な重要性も帯びてきています。フリーソフトウェアの理念を信奉する人々の強固なコミュニティがあり、オープンソース技術をできる限り改善することへの協力に時間を割いています。

このコミュニティの人々はさまざまな活動を主導しました。例えば Ubuntu や、インターネットの発展を担う標準化団体、Mozilla Firefox の開発を進める Mozilla Foundation などの組織、その他の数々の過去にユーザーに実際に恩恵を与えてきたソフトウェアプロジェクトなどです。

Linux に通常認められるオープンソースの精神はあらゆるところのソフトウェアの開発者とユーザーを感化しつつあり、コミュニティを共通の目標に向かわせています。

1.9 GNU とは？

GNU プロジェクト(グヌーと発音)は 1984 年に開始され、フリーソフトウェアからなる完成された UNIX 形式のオペレーティングシステム(GNU システム)の開発を目指しています。GNU オペレーティングシステムの変種として、Linux カーネルを用いたものがいまでは広く使われています。

GNU プロジェクトと密接に結びついたフリーソフトウェアの哲学は、Ubuntu などの派生したプロジェクトの中心をなしています。

8 <http://www.kernel.org/>

Step 2 インストールと環境構築

2.1 注意

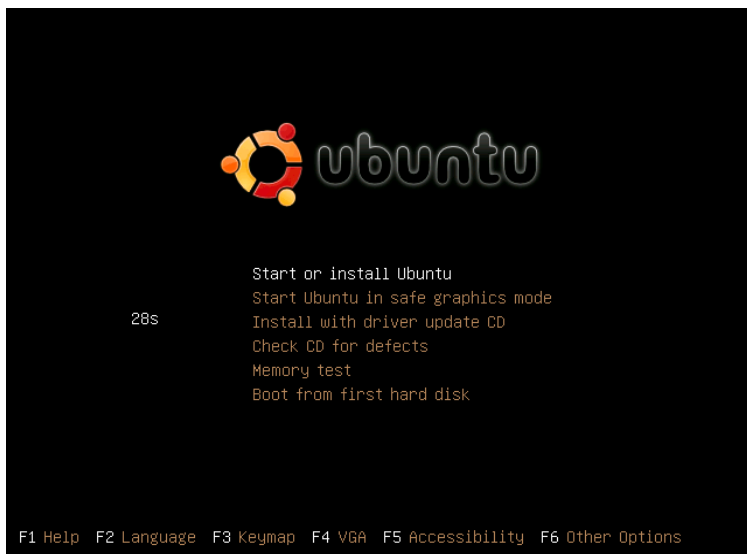
ここではまっさらのマシンに新規インストールすることを想定して説明します。もし Windows などほかの OS とデュアルブートにする場合は、データの損失を想定してバックアップを取ってください。自信がない場合は VMware のイメージを使用することも考慮してください。得てして失ったデータを取り戻すことは困難か不可能です。

2.2 スペック

リリースノート⁹ にはメモリが 256MB 必要と書かれているだけです。ほかにはハードディスクの空き容量が 3GB 以上必要です。

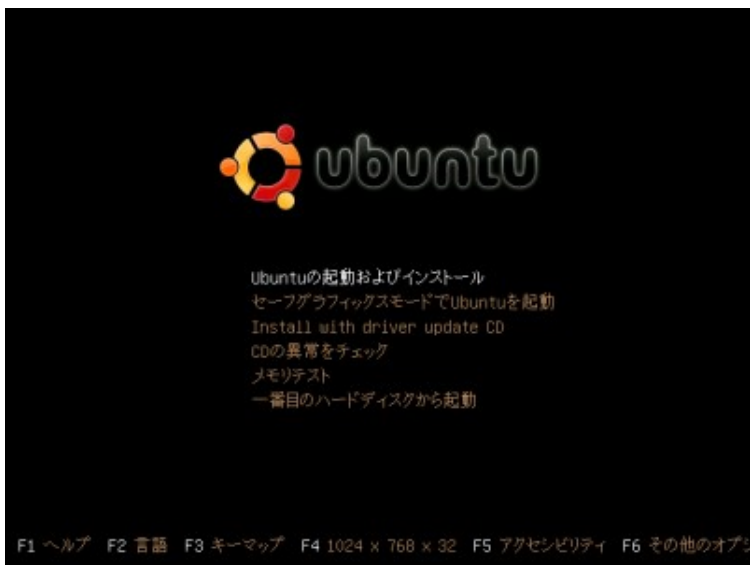
もちろん低スペックのマシンで動くことを保証しているものではないことにご注意ください。

2.3 公式版 Desktop CD からインストール

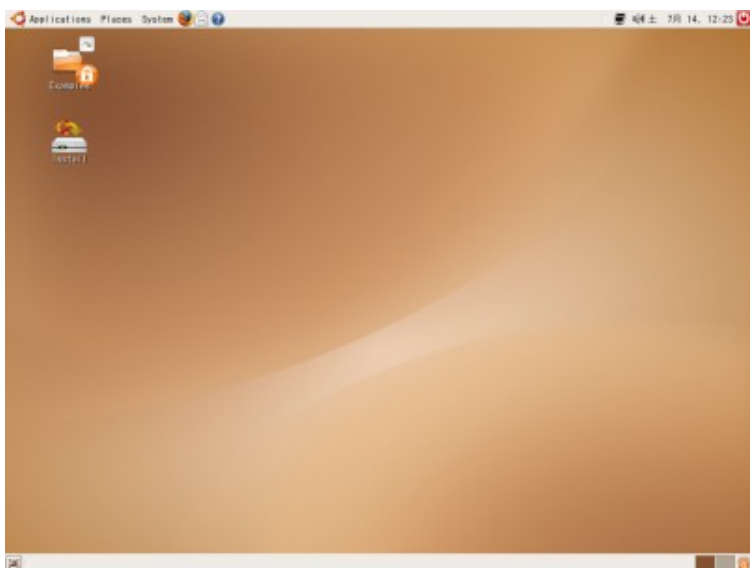


CD-ROM から起動するとこの画面になります。

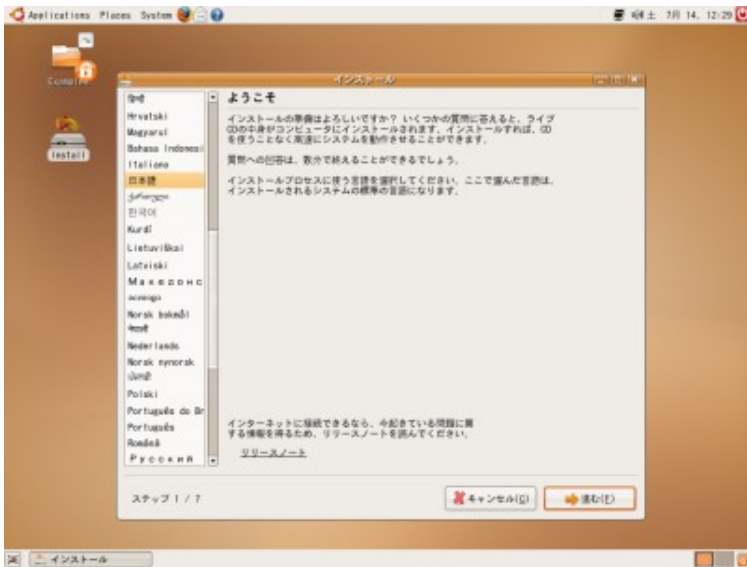
9 <http://www.ubuntu.com/getubuntu/releasenotes/704>



ここでは[F2 Language]で[日本語]を、[F4 VGA]を[1024 x 768 x 32]を選択していますが、これは必須ではありません。



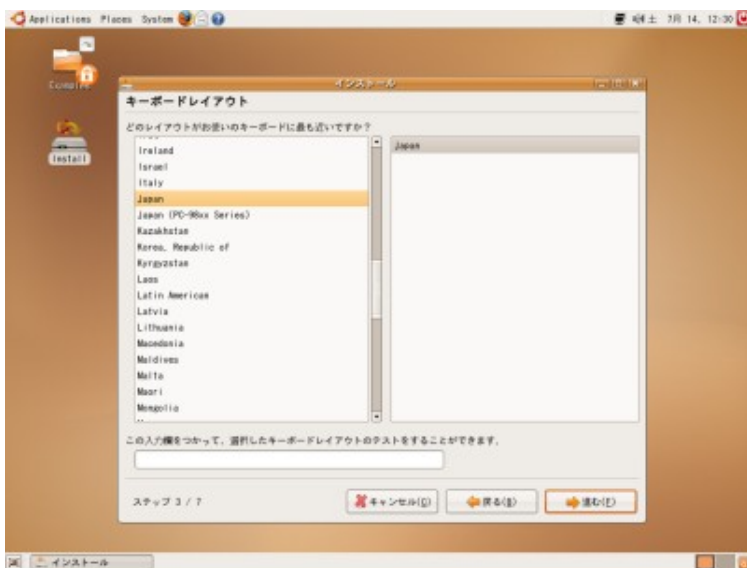
エンターキーを押してしばらく待つと、この画面になります。デスクトップの 2 版目のアイコンをダブルクリックすると、インストール開始になります。



インストーラの最初の画面です。もし英語になっている場合は、左側から[Japanese]を選択してください。



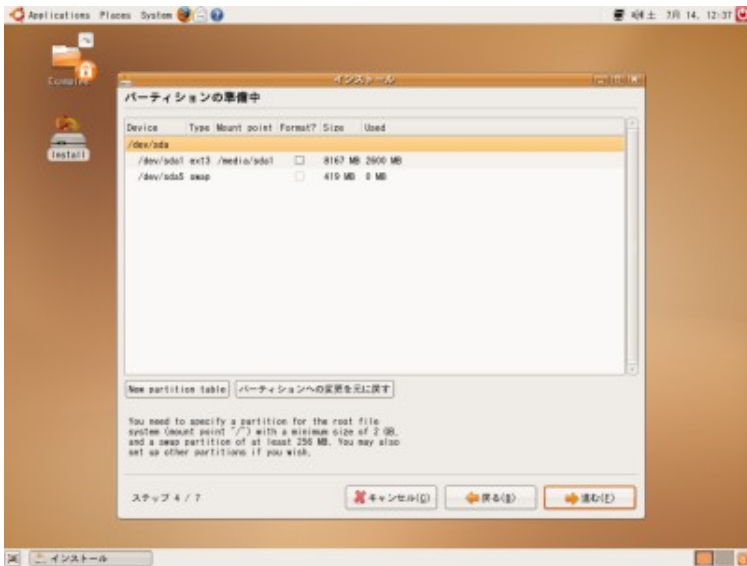
日本語を選択したら、そのまま[進む]をクリックすればいいでしょう。



キーボードもデフォルトでいいでしょう。



一番難しい[ディスクの準備]です。ここではディスク全体を使用するので 2 番目を選択します。もし Windows などほかの OS とデュアルブートになっていて空きパーティションがない場合は 1 番目を選択します。手動で選択する場合は 3 番目を選択してください。



パーティションの確認画面が出ます。



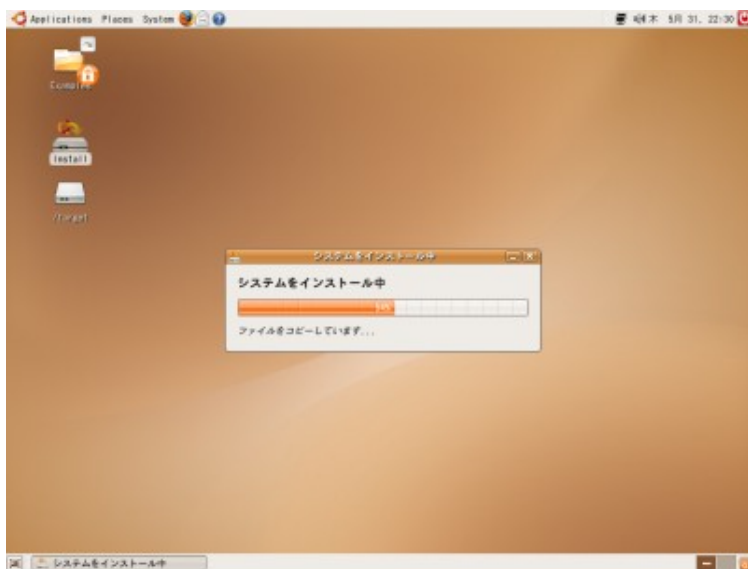
デュアルブートの場合、もう一方の環境のデータを移行するか質問されます。



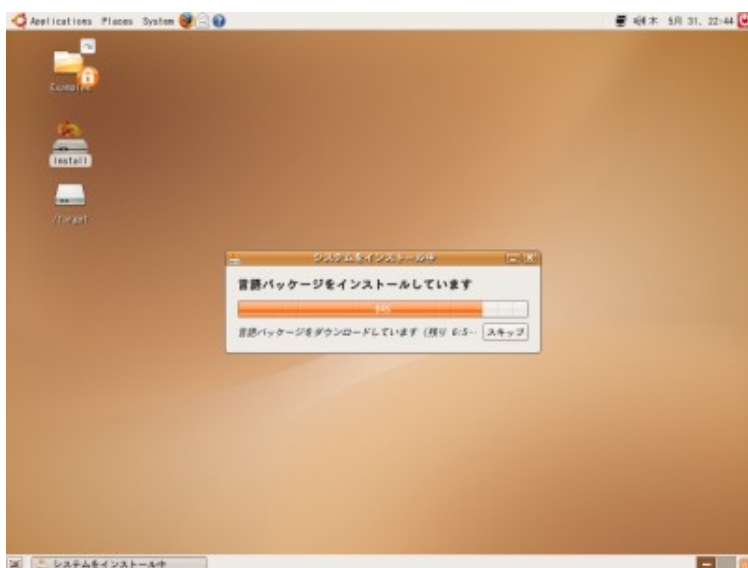
ログイン時に使用するユーザ名、パスワード、あとホスト名を設定します。



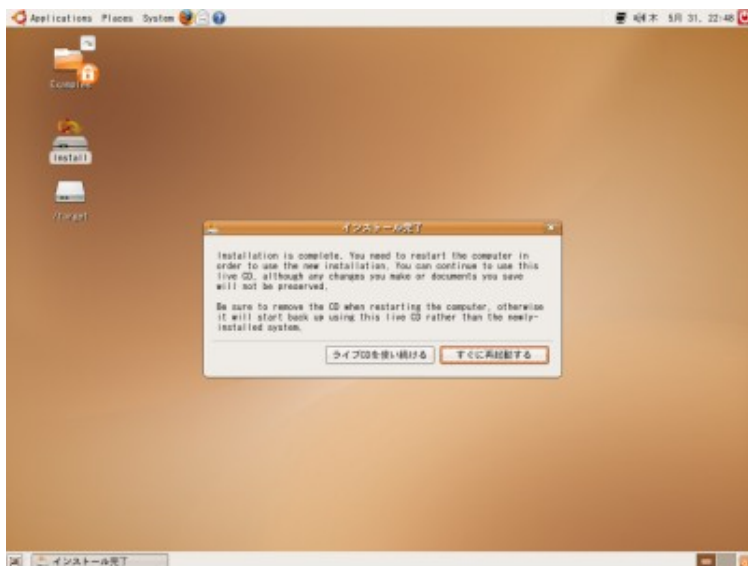
これにて設定は終了です。[Install]をクリックすると開始するので、変更点があれば戻ってやり直してください。



実際にインストールが開始されます。

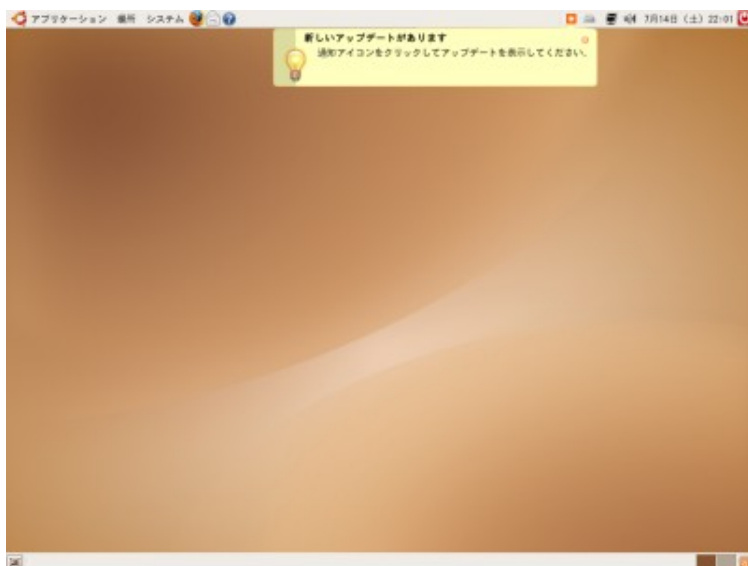


インストール終了後、選択した言語に関連するパッケージがダウンロード・インストールされます。

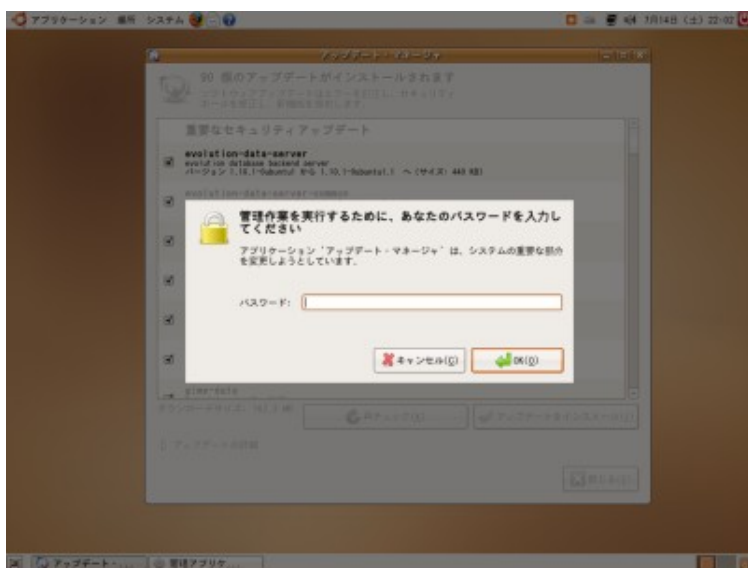


ダイアログの日本語訳は、「インストールは完了しました。新しくインストールしたシステムを使用するためには再起動する必要があります。この Live CD を使いつづけることもできますが、変更点は保存されません。コンピュータを再起動する前に CD を抜いてください。そうしないと新しいシステムではなく Live CD が再び起動してしまいます。」です。

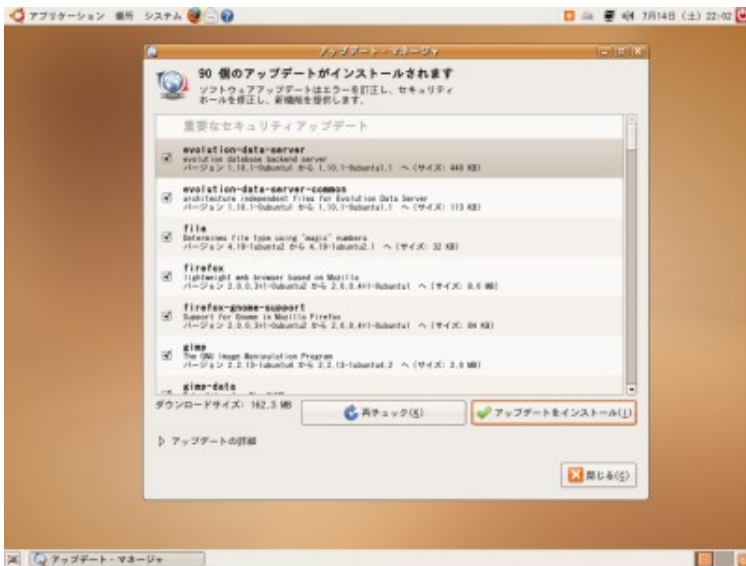
2.4 最新の状態に更新



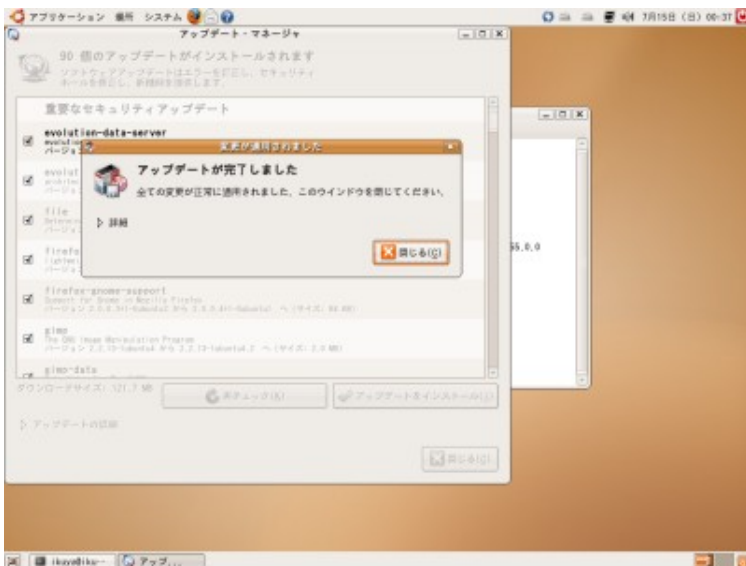
CDを抜いて再起動し、インストール時に設定したユーザ名とパスワードでログインするとこのデスクトップが表示されます。まず最初にアップデートをしましょう。



ポップアップが出ているオレンジのアイコンをクリックすると、パスワードを聞かれます。

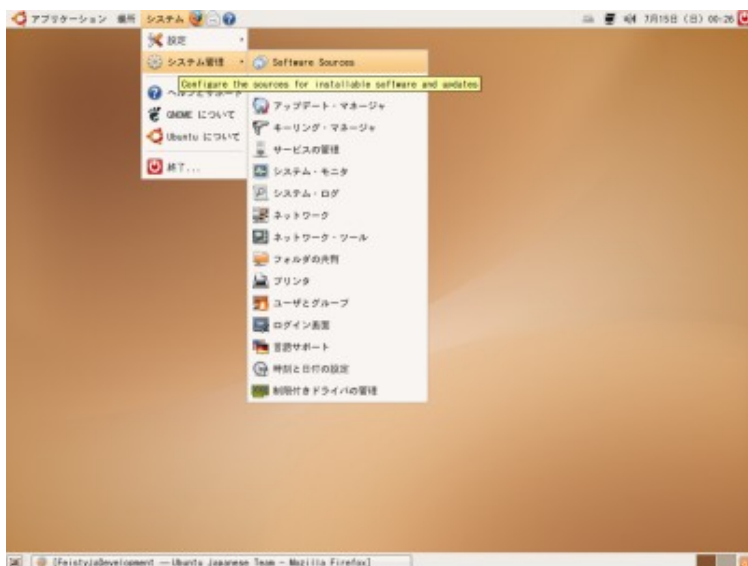


パスワードを正確に入力すると、アップデートマネージャが起動します。[アップデートをインストール]をクリックし、アップデートを開始します。

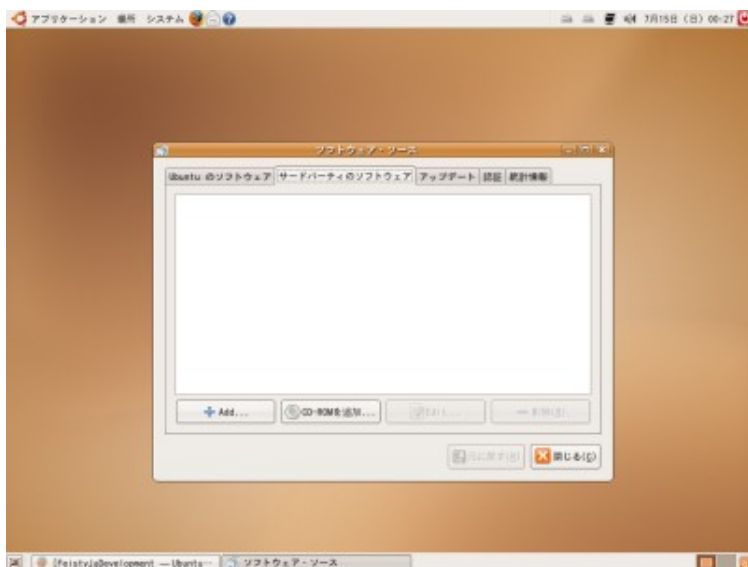


ダウンロードとアップグレードが完了するとこの画面になります。閉じた後、システムを再起動してください。

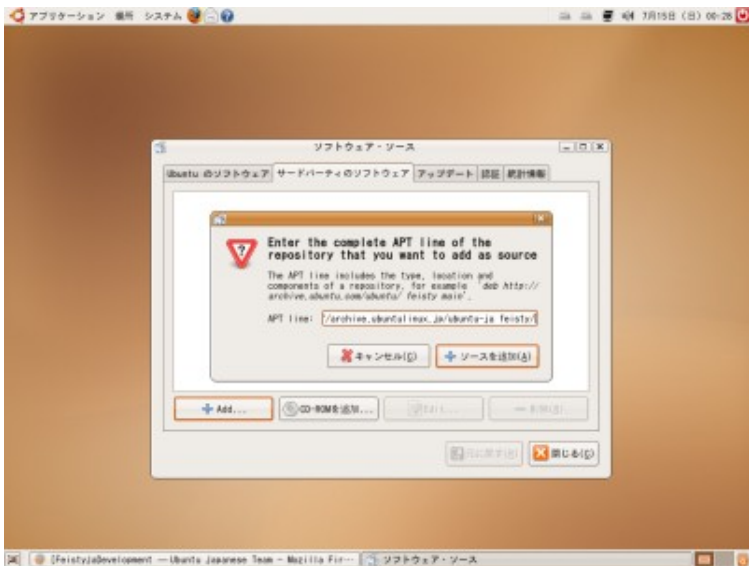
2.5 日本語ローカライズ版と同等にする



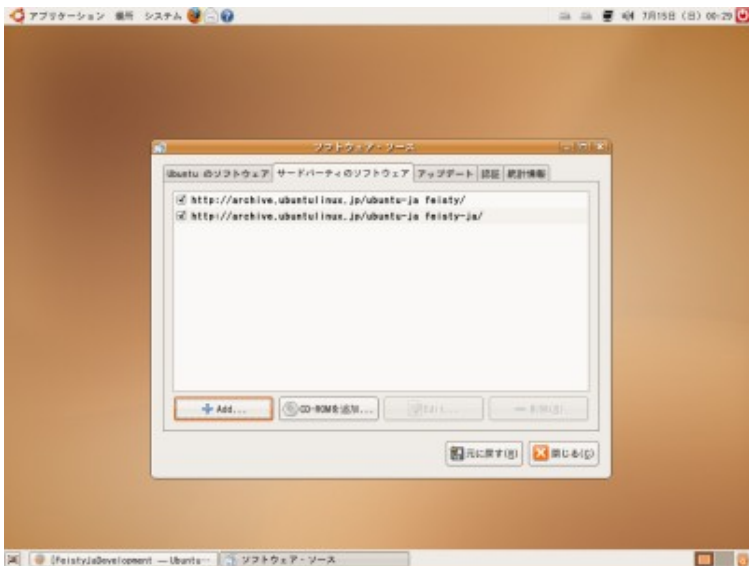
再起動後、設定を変更して日本語ローカライズバント同等の環境にします。画面のとおり[Software Sources]を起動します。



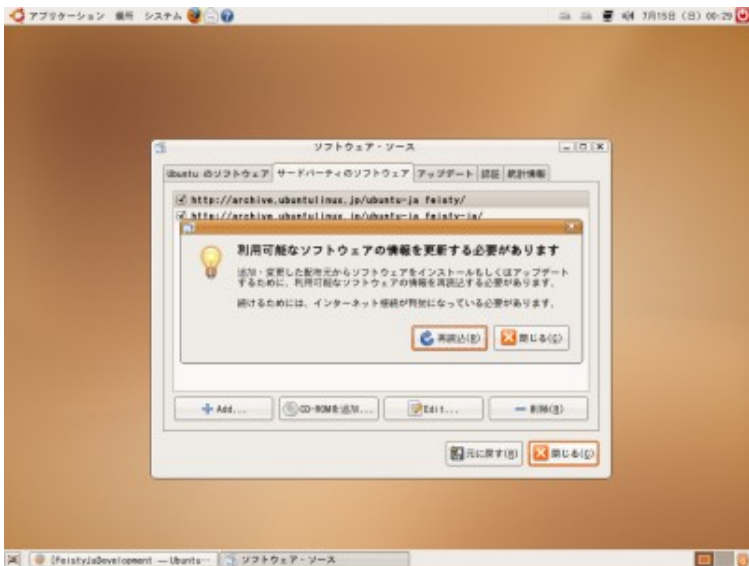
[サードパーティのソフトウェア]タブを開いて、[Add...]をクリックしてください。



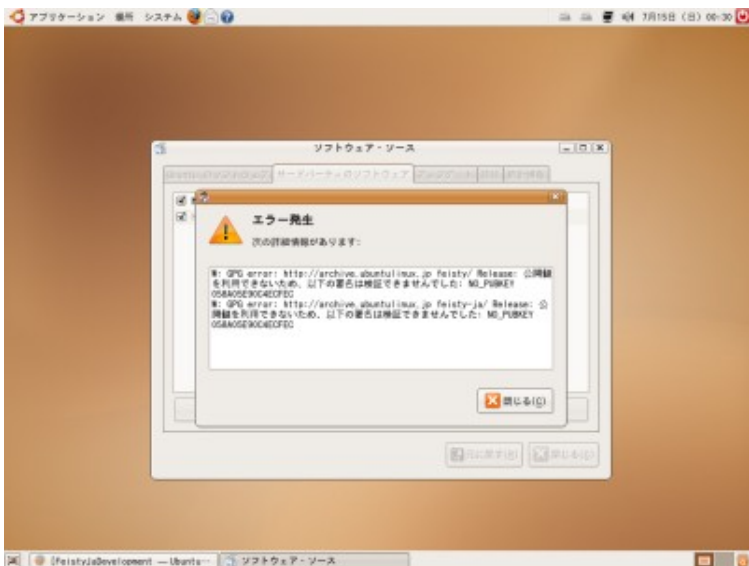
[deb http://archive.ubuntulinux.jp/ubuntu-ja feisty/]と入力して[ソースを追加]をクリックし、もう一度[Add...]をクリックして[deb http://archive.ubuntulinux.jp/ubuntu-ja feisty-ja/]と入力して[ソースを追加]をクリックしてください。



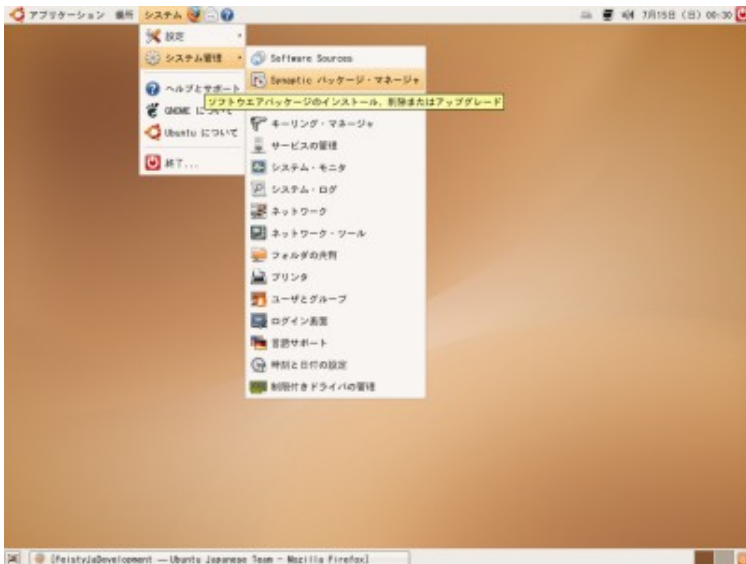
上記のとおりになっていれば成功です。



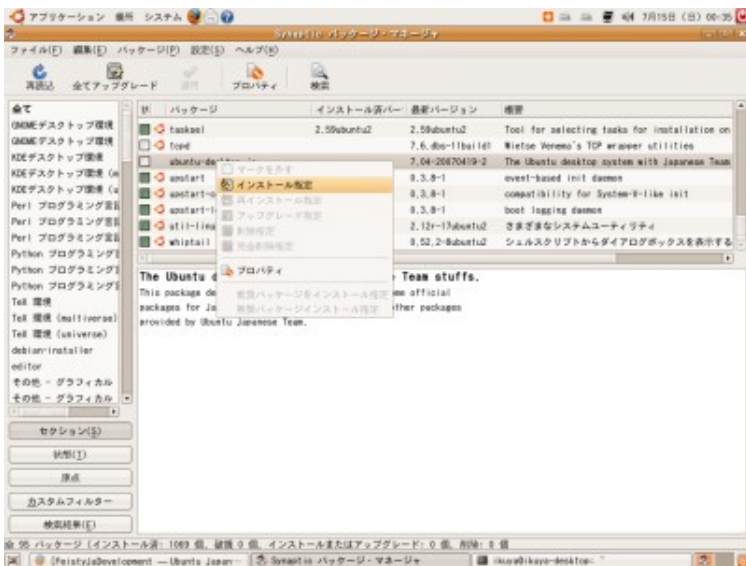
[閉じる]をクリックするとこのダイアログが出ますので、[再読み込み]をクリックしてください。
GPG エラーが出ていますが、とりあえずここでは[閉じる]をクリックしてください。[ソフト



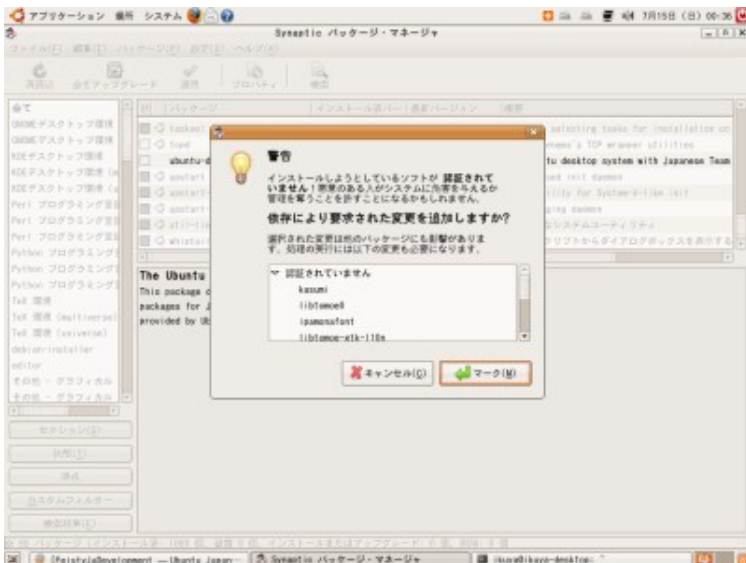
ウェア・ソース]を終了します。



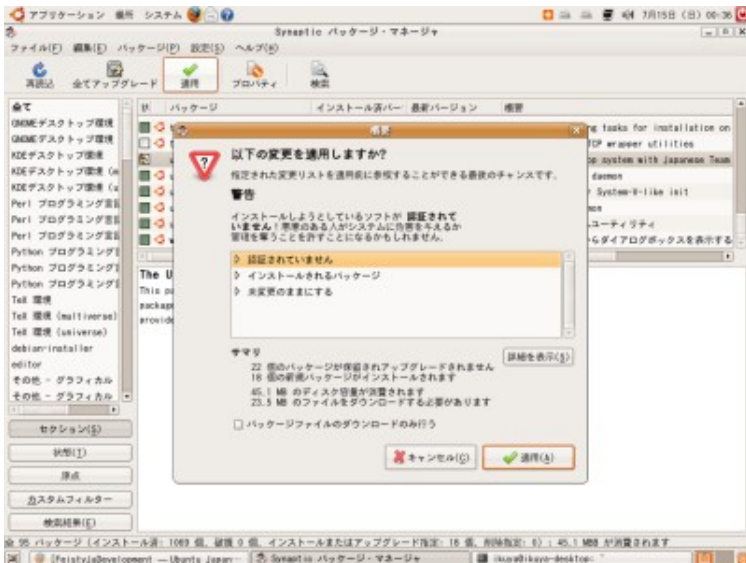
今度は[Synaptic パッケージ・マネージャ]を起動してください。



左側のペインから[ベースシステム]をクリックし、下の方にある[ubuntu-desktop-ja]を右クリックし、[インストール指定]をクリックしてください。その後上部の[全てアップグレード]もクリックし、[適用]をクリックしてください。



警告が出ますが、[サードパーティのソフトウェア]にサンプルのとおり2つしかなければ安全と考えていいので、[マーク]をクリックしてください。



再び警告が表示されますが、[適用]をクリックしてください。しばらく待っているとインストールが完了します。一度ログアウトし、再ログインすると新しい環境になります。

Step 3 Tips

3.1 SCIM の設定

「日本語ローカライズ版と同等にする」でパッケージ的には同等になりましたが、一部設定の変更まではできていないので、ここでは代表的な SCIM の設定である候補ウィンドウを縦にする方法を紹介します。

[システム]-[設定]-[SCIM 入力メソッド設定]を起動し、[パネル]-[GTK]の[候補ウィンドウを縦に表示]にチェックを入れます。[OK]をクリックすると以後候補ウィンドウが縦になります。



3.2 簡単コーデックインストール

Ubuntu 7.04 以降では、標準では再生できない Codec を使用したメディアファイル (WMA や MP3 など) が実行された場合、その Codec を自動的に検索しダウンロードする機能があります。

使用方法は簡単で、そのメディアファイルをクリックするだけでウィザードが起動するので、その指示に従うだけです。



また、Java VM や Flash plugin など Non-Free なものをまとめてインストールしたい場合は、“ubuntu-restricted-extras”というパッケージをインストールするといいです。

それでも DVD-Video は再生できないので、したい場合は“libdvdrread3”をインストールし、/usr/share/doc/libdvdrread3/README.Debian に書いてある方法を行ってください。

3.3 プリンタ

ここでは、各メーカーのプリンタのセットアップ方法を紹介します。

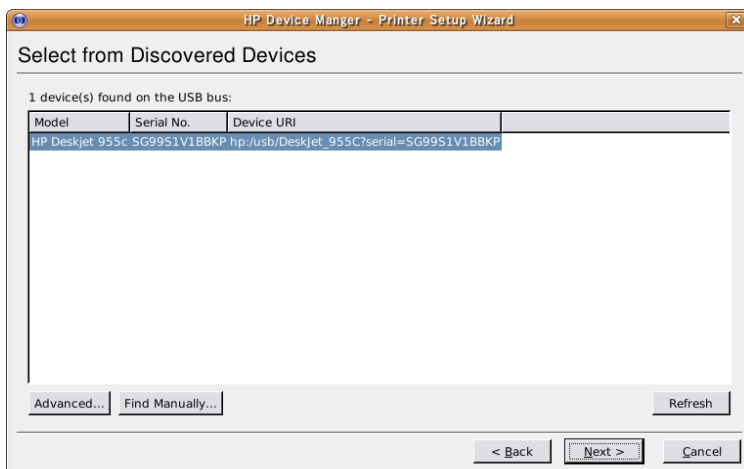
当然ですが、あなたがお使いのプリンタで動作することを保証するものではありません。むしろ使えない場合の方が多いかもしれません。ではどこのメーカーのプリンタなら Linux で使えるのでしょうか。一番確実なのは“Postscript”に対応したプリンタです。ただし、レーザープリンタしかありません。

インクジェットプリンタだと、HP(Hewlett-Packard)製が確実です。HP が自らドライバやユーティリティを作成し、配布しています。もちろん Ubuntu でも使用可能です。

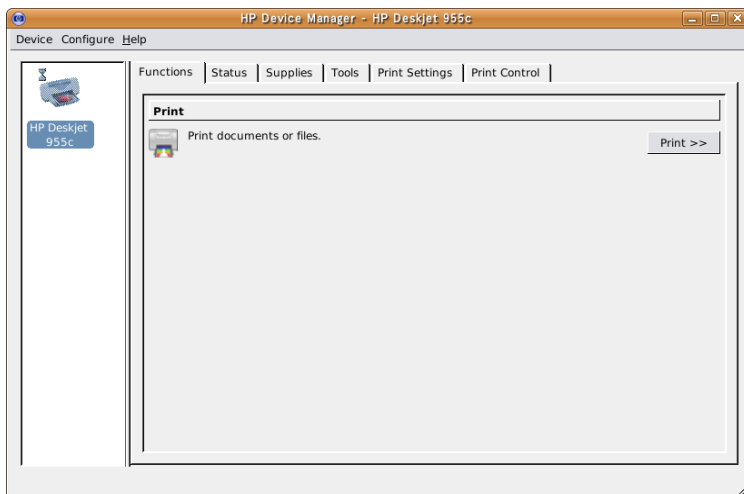
3.3.1 HP 編

設定に必要な HP 純正ドライバやユーティリティのパッケージは入っているものの、起動するようにはなっていません。起動するためには“python-qt3”をインストールする必要があります。

あとは“sudo hp-setup”で HP Device Manager が起動するので、英語ですが指示にしたがって進めてください。

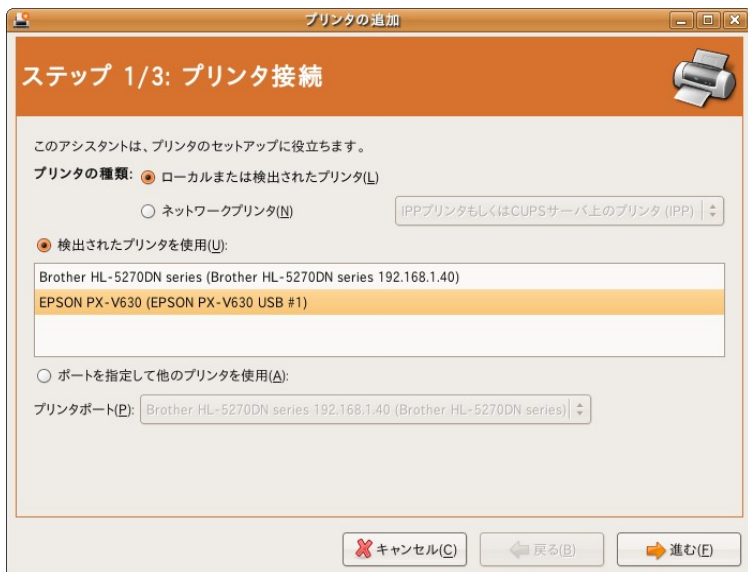


ユーティリティを起動する場合は“hp-toolbox”を起動してください。

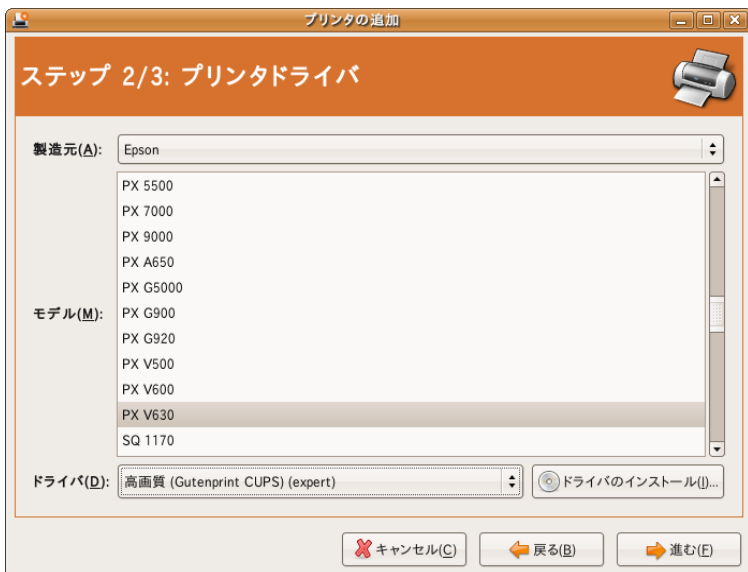


3.3.2 Canon/EPSON 編

プリンタを接続し、[システム]-[システム管理]-[プリンタ]を起動します。[新しいプリンタ]をダブルクリックすると接続されているプリンタを自動的に検出します。



[進む]をクリックするとドライバを選択する画面になります。



ここではPX-V630 なので、[PX V630]を選択します。

3.3.3 Brother 編

Brother のプリンタ(だけではなく複合機のスキャナや PC-FAX もそうですが)はオフィシャルドライバが配布されている¹⁰ ので、これを使用します。マニュアルも配布されているので特に困るようなことはないでしょう。もちろん Ubuntu の場合は Debian 用のドライバをインストールしてください。

配布されているパッケージをインストールしたらプリンタが自動的に登録されますが、これは USB で接続されていることを想定しています。もしネットワークで接続している場合は設定をやり直してください。

3.3.4 Postscript(互換)プリンタ編

Postscript 対応プリンタはドライバが必要ないので、設定が極めて簡単です。プリンタを接続して[新しいプリンタ]をダブルクリックし、機種を選択して[進む]をクリックし、製造元[Generic]にして[Postscript]を選択します。



¹⁰ <http://solutions.brother.co.jp/support/os/linux/index.html>

3.4 さらになる情報

3.4.1 書籍

『Ubuntu 徹底入門』 <http://www.ubuntulinux.jp/tettei-nyumon>

『ubuntu Linux 入門キット』 <http://www.shuwasystem.co.jp/cgi-bin/detail.cgi?isbn=4-7980-1374-9>

3.4.2 Web

Ubuntu Japanese Team: <http://www.ubuntulinux.jp/>

Ubuntu Japanese Wik: <https://wiki.ubuntulinux.jp/>

Ubuntu 日本語 Forum: <http://forum.ubuntulinux.jp/>

3.4.3 最新版

このドキュメントの最新版は、<http://ikuya.info/wiki/index.php?UbuntuInstGuide> で配布されています。

奥付

著者

Canonical Ltd. and members of the Ubuntu Documentation Project (Step 1)

あわしろいくや (Step 2/3)

Step 1 の著作権およびライセンス

このドキュメントは Ubuntu documentation team¹¹ が保守しています。貢献者は以下のとおりです。

Fumihito YOSHIDA, Jun Kobayashi, Kanetaka Suto, Masaki Komagata,

Sho "Takeyari" Sone, Shushi Kurose, atsushix

このドキュメントは、Creative Commons ShareAlike 2.5 License (CC-BY-SA)のもとで利用可能とします。

このライセンスのもとであれば、利用者は Ubuntu ドキュメントのソースコードを自由に改変、加筆、改善することができます。すべての派生物はこのライセンスのもとでリリースしなければなりません。

この文書は利用者の便宜になることを期待して配布しますが、何らの保証をするものではなく、また、免責条項に記載のある通り、商品性や特定用途に対する適合性を暗黙に保証するものでもありません。

このライセンスのコピーは以下で参照可能です:Creative Commons ShareAlike License¹²

Canonical Ltd.と Ubuntu Documentation Project 一同

Step 2/3 の著作権およびライセンス

このドキュメントはあわしろいくや¹³ が保守しています。

このドキュメントは、Creative Commons ShareAlike 3.0 License (CC-BY-SA)のもとで利用可能とします。貢献者は以下のとおりです。

mizuno

11 <https://wiki.ubuntu.com/DocumentationTeam>

12 <http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.5/deed.ja>

13 <http://blog.goo.ne.jp/ikunya/>

このライセンスのもとであれば、利用者は自由に改変、加筆、改善することができます。すべての派生物はこのライセンスのもとでリリースしなければなりません。

この文書は利用者の便宜になることを期待して配布しますが、何らの保証をするものではなく、また、免責条項に記載のある通り、商品性や特定用途に対する適合性を暗黙に保証するものでもありません。

このライセンスのコピーは以下で参照可能です:Creative Commons ShareAlike License¹⁴

商標

Ubuntu and Canonical are registered trademarks of Canonical Ltd.

バージョン情報

7.04-070718…章番号など微調整

7.04-070717…typo など微調整

7.04-070715…初版

14 <http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/deed.ja>

